

活動報告書

報告者氏名： 日置節子

所属：大阪府立寝屋川支援学校

記録日：平成27年2月12日

【対象児の情報】

・小学部 4年生

・障害と困難の内容

○知的障がいを伴う自閉症

【困難の内容】

- ・日常生活動作(歯磨き・着替え・鞆の片付け)に繰り返し取り組んでも、活動のイメージが確かな記憶となりにくく、注意がそれたり諦めたりして最後までやり遂げられない。また、静止画による視覚支援では、自らの行動には繋がりにくい。
- ・見通しを持ちにくい内容や、不得手な活動には取り組みが難しく、不安定になることがある。
- ・個別学習や家庭での学習に一人で取り組みにくく、学習機会が限られる。

<当初のねらい>

- ① 自ら動画を選択し視聴しながら、日常生活動作をやり遂げる。
- ② 動画を繰り返し見たり模倣したりして、より巧緻性の必要な日常生活動作のやり方が分かる。
- ③ 授業内容に関わる動画で学習機会を増やし、自信を持って行動できる場面を増やす。

・実施期間

- ①平成25年6月～現在 ②③4年生当初～現在

<昨年度の実践における成果>

昨年度の実践で歯磨きや鞆の片付けが「ビデオモデル(動画)」を使った視覚支援でできるようになった。

・実施者

日置節子 阿部壮太

・実施者と対象児の関係

クラス担任



鞆の荷詰めの手順を示す動画を見ながら、下校の準備をする。

【活動内容と対象児の変化】

・対象児の①②のねらいに対する事前の状況

日常生活動作の動画を、視覚支援として使う前（3年生まで）は、登下校時の鞆の片付け、着替え、歯磨きなどを最後までやり遂げる事が難しく、途中で注意がそれたり諦めたりすることが多くありました。毎日繰り返している活動ですが、繰り返すことだけでは、それらが定着しませんでした。また、イラストや文字による視覚支援を使っても、本児が自ら行動する手段になりませんでした。最後は教師の言葉掛けや手助けが必要になっていました。

昨年度（3年時）の実践では、歯磨き、鞆の片付け（登校時）などに、動画を視覚支援として活用しました。

動画の再生と作成に iPad、iPhone を活用しました。

具体的な動作を示す動画を見聞きしながら取り組むことで、活動の詳細や手順を理解して、自発的に行動できるようになりました。



今年度は、新たに2つの視点を加えて取り組みました。

1つは、**iPad、iPhoneを自分のツール（道具）として使う**ことです。「ツールとして使う」というのは「自分の判断で、使う場面・使い方、を決める」ことを意味します。昨年度までは、iPad、iPhoneを使うタイミングを担当が判断し、直接本児に手渡していました。操作は本児が行っていましたが、「いつ使うか」「どの動画を使うか」「使うか、使わないか」を試行錯誤する機会がありませんでした。

そこで今年度は、可能な限り本児のロッカーに iPhone を置いておいて、使い方を工夫してもらうことにしました。

もう1つは、**さらに巧緻性の必要な日常生活動作をやり遂げる**ことです。以下の新たな活動に取り組みました。

<服を次に着やすい状態に脱ぐ活動>

服を脱ぐと、上着とシャツの二枚が、裏返った状態で重なってしまいました。表と裏の見分けが不十分なので、着やすい状態に服を戻す事ができませんでした。再び着ようとする時に戸惑ってしまい、教師の直接的な手助けが必要になっていました。

<下校時の鞆の荷物詰め>

連絡帳、水筒、脱いだ服などをリュックにつめ、ファスナーを閉めて椅子にかける活動です。これまで荷物があふれてしまい、最後まで荷物を作りあげることができませんでした。途中で諦めてしまうこともしばしばありました。

・対象児の③のねらいに対する事前の状況

授業や行事で、見通しが持てなかったり課題が難しかったりすると、不安定になることがありました。教師が繰り返し学習する機会を持たせ、見通しや理解を高めたいと思っても、自学自習や家庭学習の機会が少ないという課題がありました。

本児が自学するために、教材として紙のプリントを使った場合は、一人での取り組みが継続しませんでした。授業で行うような、実演・実習などによる学習は、自学自習や家庭学習でそれを再現するのが困難でした。

本児が興味を持ち、情報を獲得しやすい動画を iPad で視聴することで、学習内容に触れる機会を増やし、課題を自分でやり遂げられるきっかけにしたいと考えました。

・活動の具体的内容

<動画再生・作成に使用したアプリ>



①写真



②カメラ



③iMovie



④Keynote



⑤Explain Everything

①・・・着替え、歯磨きなどの日常生活動作を示す動画が入れてあり、それを見ながら活動。

②③④⑤・・・日常生活動作の動画、授業内容や行事の動画・スライド作成。

作成後は①写真アプリの「アルバム」にタイトルを付けて保存した。

本児が自学や家庭学習にも活用。

・対象児の事後の変化

<iPhone をツールとして使いながら、日常生活動作をやり遂げる>

iPad より携帯しやすい iPhone にツールを替え、また、本児のロッカーに置いておくようにしました。取りかかりに時間がかかりすぎる時は、教師が次の活動を伝えるようにしました。また、好きな音楽を聴く等のやりたいことを、活動終了後の予定として一緒に考え、約束するようになりました。

現在の本児は、動画を使うことを自分で判断できるようになってきています。取りかかりに時間がかかることもありますが、自ら使いたい動画を再生し、活動をスタートさせることが多くなりました。必要な動画だけを部分的に再生する、活動が間に合わなければもう一度同じ動画を再生するなど、動画を工夫して利活用している様子が見られます。



左：自分で iPhone を手に取り、動画を見ながらエプロンに着がえる。終わったら、好きな絵本を読む予定。

【 新たな日常生活動作をやり遂げる 】

< 下校時の鞆の荷詰め >

順序よく鞆に荷物を詰める方法を示しました。最初は、一連の流れが繋がった動画を使用しましたが、テンポについていくことができず、途中で諦めてしまうことが分かりました。そこで活動を一行程ずつ示す動画の形態に変更しました。数回動画を見て、内容を確認しながら一行程ずつ取り組み、下校準備をやり遂げることができました。



左：動画で順番を確かめながら、
鞆にタオルを詰める

< 服を次に着やすい状態に脱ぐ活動 >

そでを順番に引っ張るなどして、裏返りにくくきれいに上着を脱ぐ方法を示しました。動画作成時には、音声・字幕・テンポなどの情報の精選に留意しました。最初は、教師に傍らで動きを示してもらいながら取り組みました。動画に慣れるにつれ、視聴しながら服をきれいに脱げるようになりました。動画自体を好きになって、着替えの時間以外にも繰り返し見たり、自宅で人形の服を脱がせる遊びをしたりしました。

< 動画を使って学習機会を増やす >

日常生活動作の取り組みと同様に、「行程を理解して自分でやり遂げる」というねらいのもとで、特に描画で動画を視聴しながら取り組みました。友だちと一緒に描き方の動画を繰り返し見て確かめながら、自分で描きあげることができました。他にも、「木琴の鳴らし方」、「おはじきの数え方」などいろいろな動画を活動に取り組めました。中には行動に移すのがむずかしい課題もありましたが、動画をよく見ることができました。

毎週末に家庭学習として、授業の動画やスライドが入った iPad を持ち帰りました。視聴が主となる宿題に自ら取り組むことも多く、気に入っている物は繰り返し視聴して言葉や内容を覚えることもありました。



左：モデルの動画『ぶどうをかこう』



右：できあがった作品

【報告者の気づきとエビデンス】

・報告者の主観的気づきとエビデンス

○日常生活動作をプロンプトする動画は形態の精選が必要

動画を日常生活動作の視覚支援として活用する過程で、本児に分かりやすい動画の形態があることが分かりました。以下がそのポイントと、本児の様子です。

＜動画の形態のポイント＞

＜本児の様子＞

- ◎モデルの動きが滑らか・・・動きがスムーズになることで活動できた。
- ◎動きに合う音声を活用・・・同じ言葉を声に出しながら活動していた。
- ◎行程を繋げるか、区切るか・・・内容は同じでも、活動に違いがある。使いやすい方を選択していた。
区切られている方を選ぶことが多かった。
- ◎できたことをフィードバック・・・動画の最後に花丸などが出ると、「まる、まる」と喜んでいた。
- ◎動画の長さは短めに

着替えの動画の比較

＜本児モデル＞



うわぎをぬぐ

＜担任モデル＞



情報が混在する本児モデルの「動画」では行動に移せなかったが、情報を精選した担任モデルの「動画」では自らの行動に繋がった。

＜ 動画使用でやり遂げた日常生活動作と 動画の形態 ＞

日常生活動作	歯磨き	鞆の片付け（朝）	着替え	鞆の荷物詰め（下校時）
動画の形態	<ul style="list-style-type: none"> ・担任モデル ・1分程度 	<ul style="list-style-type: none"> ・担任モデル ・行程をステップに分けたもの 	<ul style="list-style-type: none"> ・担任モデル ・行程をステップに分けたもの 	<ul style="list-style-type: none"> ・担任モデル ・行程をステップに分けたもの
当該動画を 使う前の様子	イラストでは難しい	本人モデルの動画では難しい	繰り返しの言葉掛けが必要	全行程一連の動画では難しい

担任モデルによる動画、行程をステップに分けたものは共通していた

○動画の繰り返しの視聴は理解を助け、確かな記憶に繋がる

〈 上着を裏返らないように脱ぐ活動の様子(観察より) 〉

7月・動画に興味を持ち、動きと言葉を模倣しながら繰り返す。

夏休み・家庭で、鏡を見ながら動画の通りに動いて練習。

12月・長袖になり脱ぎにくそうな様子が見られるが、動きを覚えており動画と同じ言葉を口にしながら、きれいに脱ごうと試みた。

○興味を持った動画を iPad で視聴することで、自ら学習ができる

iPad を使った家庭学習についての保護者アンケートより

・動画の動きやつながりがわかりやすく、本人ペースで繰り返し操作できるという利点で（家庭学習に）取り組みやすかった。成長を感じるところも多く見られ、良い物と実感しています。

自学自習のエピソードより

・気に入った動画を自分で再生して何度も視聴したり模倣したりしました。学習後しばらくしてから「なしをかこう（なしを描く行程を動画化したもの）」を見直して自らなしを描いていました。

【今後の見通し】

・保護者が iPad を購入

自分の iPad を持ったことを、今後の動画活用へ繋げていけるよう、引き継ぎを行っていきたいと考えています。日常生活動作を示す動画は、「カメラアプリで撮影」することで、ごく簡単に作ることができます。スキルを伝えていきます。

・動画、iPad が新たな理解の手段

動き、音、文字などを介して理解できる、繰り返しの視聴ができる、自らアクセスできるという点で、iPad 上の動画は、今後の学びに広く活用していけるツールということが分かりました。学習していく内容は変化していきますが、理解の手段の1つとして、動画・iPad の活用を継続していきたいと思います。